

# NJ素流協 News

平成28年12月10日

第143号

平成28年12月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 先進地視察研修を開催

〔長野県のカラマツ供給・薪ビジネスを視察〕

NJ素流協は、11月9～11日の3日間にわたり長野県での先進地視察研修を開催し、組合員、役職員等20名が参加した。前号で紹介した長野県からの視察団と相互視察する形となった。

▽11月9日(水)

①東信木材センター協同組合連合会(小諸市)

東信地方は長野県東部に位置し、真田幸村ゆかりの上田市や小諸市、軽井沢町等4市6町5村の15市町村からなる地域である。

はじめに、信州カラマツ材の供給で有名な東信木材センター協同組合連合会を視察した。視察では大日方英雄理事長、小相沢徳一代理事専務、伊藤淳所長に説明を頂いた。

東信木材センター協同組合連合会は県森連等の12団体で構成されており、売り手側の素材生産業者と、買い手側の製材業者が同じ構成員となっている珍しい組織である。平成27年

度の年間取扱数量は約15万㎡で、このうち約8割をカラマツが占めている。

同センターの特徴の一つに、小径木(末口4～14cm)を径級毎に1cm刻みで仕分けする「一目(ひとめ)選木」がある。これらの材は併設する加工施設において土木用材等に加工され、有利に販売されている。取り扱う丸太は土木用のほかにも製材用、合板・LVL用、チップ用等があり、種類・量とも充実した品揃えとなっている。



工場には小径材が大量にストックされている

また帰り荷を利用した全国配送にも取り組んでおり、浮いた経費については山元に還元している。

②浅間山カラマツ植物群落保護林(北佐久郡御代田町)

次に、中部森林管理局 東信森林管理署の松井正署長、郷原辰実次長の案内により、浅間山国有林内の浅間山カラマツ植物群落保護林を見学した。ここは1850年頃に植栽されたと伝えられる我が国最古のカラマツ人工造林地であり、学術的にも貴重な森林として保護されている。

▽11月10日(木)

③双葉林業合資会社小海工場(南佐久郡小海町)

次に訪問した双葉林業合資会社小海工場では、カラマツを元から末まで余すところなく利用するために設立された「南佐久唐松出荷会」から供給される丸太の製材・加工が行われている。同出荷会の代表も兼任する高見澤敏明代表社員に説明を頂いた。

双葉林業は長尺物の販売を得意としており、用途としては屋形船の係

留杭などに使われるという(写真)。杭材以外にも太鼓落、矢板、鉄道用の木製覆工板等が生産されている。



長尺もの丸太を見学する参加者

④南佐久中部森林組合(小海町)

南佐久中部森林組合では、黒澤和夫代表理事組合長、新津清秀参事に説明を頂いた。

同組合が製造・販売する「燻薪カラマツくん」は、A材を採るために除かれた曲がり部分や、カビ・虫害材の利用を目的として考案されたもので、古民家の囲炉裏の理論を活用し、燻化(燻すこと)によって防菌・防虫効果を高め、長期保存を可能にした薪である。出来上がった薪は十分乾燥しているため着火性に優れ、

小割りするとライターでも点火できる。ダンボール1箱5kg 2500円で販売されており、災害時の備蓄用としても利用されている。

⑤株式会社吉本(南佐久郡佐久穂町)

続いて当組合の組合員(株吉本岩泉事業所)でもある(株吉本の本社を訪れ、由井正隆代表取締役、由井正宏部長、飯出実課長に説明を頂いた。

同社は明治20年から続く歴史ある会社で、かつては木炭・鉄道枕木・杭丸太等の生産を行っていた。現在は本社のほか群馬県、岩手県に事業所を置き、山林事業、木材加工販売、

社有林管理の他に、観光ブルーベリー園、ショッピングセンターの運営を



観光ブルーベリー園の様子

行うなど、多角的経営を展開している。

ブルーベリー園ではカラマツのバークがマルチングに利用されている(写真)。針葉樹樹皮のpHはブルーベリーの生育に適しているとのこと。

▽11月11日(金)

⑥薪の松尾(長野市)

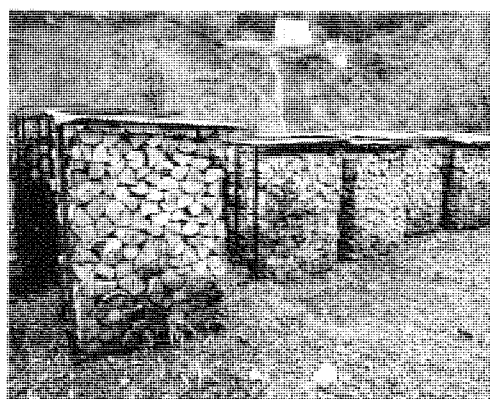
最終日は県北部の北信地方、長野市の薪の松尾を訪ね、松尾秀樹代表に説明を頂いた。

同社は従来造園業を営み、10年ほど前から冬場の仕事として薪ビジネスを行っている。薪の生産については、地元住民に農作業が終わった時期から手伝ってもらっている。原木の確保は、持ち山がある人が自分で伐ってきたものを買取っているが、立木を買うこともある。農業用トラクターを改造した自作の薪割り機等、アイデアを活かした仕事道具で生産している。

配達用の薪ラック(写真)も自作し、4tユニック車に10ラック、2tユニック車に6ラック積み配達する。配達先で空のラックを回収する

時に、次の年の注文を取っている。長野県内のラック配達半径30km圏内を送料無料としている。

段ボール詰め(1箱25kg)による販売(宅配便)も行っており、100kg単位で販売している。販売地域は、北は北海道、南は福岡までと広範囲にわたる。県内の売り上げはおよそ6割。



配達用のラックに薪を入れ乾燥する

今回、長野県で木材を無駄なく、価値を高めて販売・有効活用している例を数多く視察させていただきました。非常に有意義な研修となった。お忙しい中対応いただいた視察先の皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

# トピックス

## 中央国有林材供給調整 検討委員会に出席

森林管理局の管轄区域を越えた広域的な供給ニーズに対応することを目的とした「中央国有林材供給調整検討委員会」が11月7日、林野庁において開催され、当組合高橋常務理事が委員として出席した。

### ▽委員会の検討結果

現時点で森林管理局の管轄区域を越えた緊急の供給調整を行う必要性はないが、地域や品目により材の不足感・不安感があることに留意が必要。また、長期的な価格動向に関する対応や、即応可能な調整の体制の整備について検討することが必要。

### ▽主な意見

- ・ 好調な住宅着工戸数等を背景に、合板や製材向けの需要が増大しており原木の不足感がある。価格については、上昇している地域とそうでない地域があるなど差が生じている状況にある。
- ・ 台風災害による今後の出材への影響

や、大規模合板工場の火災の影響と復旧後の需要動向等に留意が必要。

・ バイオマス発電所向けの原木需給については引き続き注視が必要。

・ 原木価格は短期的には逸脱した動きはないが、長期的に見ると価格は下がってきており、真壁工法の普及や新たな手法によるA材の需要開拓が必要。

・ 地域によっては原木の需給は民間の業者が自動的に調整する役割を果たしているとも言える。また、国有林としては供給調整がいつでもできる体制を作っていくことが重要。

## 納入丸太の受入検査を実施

当組合では11月16日、青森県六戸町のファーストプライウッド(株)において、納入丸太の受入検査を実施した。この検査は、組合員が納入する丸太の品質向上を目的として、随時抜き打ちで実施しているもので、今回は組合員2名が出荷したトラック3台分の丸太について、ファーストプライウッド(株)担当者の立会いのもと、N J 素流協役員4名が検査を行った。結果の概要は次

のとおり。

〈**径級**〉木口に表示された径級が実際の径級と異なるものが見られた。

〈**材積**〉実測値と納品書の材積はほぼ近い数値となっていた。

〈**本数**〉1組合員について、実際に納入された本数が納品書よりも不足していた。

〈**長さ**〉納入規格に該当しない短材が見られた。

〈**欠点**〉トビ腐れ部分が大きいものが見られた。

以上の結果を踏まえ、該当する組合員に対し直接指導を行った。

当組合では、今後も定期的に受入検査



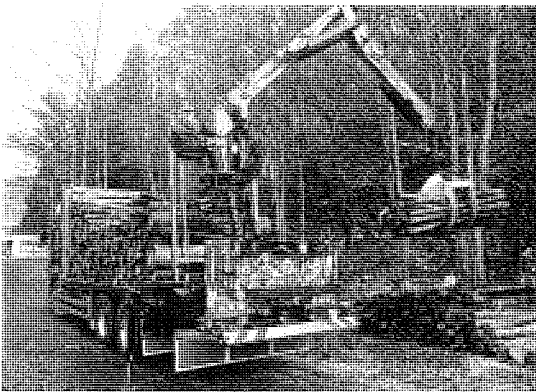
納入丸太の全数検査を実施した

査を実施することとしているので、組合員の皆様には、造材・検知の際は十分注意していただくと共に、積込時には納品書について正確に記載していただくようお願いいたします。

## 台風被害支援まきプロジェクト第2弾

前号でお伝えした「台風被害支援まきプロジェクト」の続報。11月8日、第2弾として22tトラック1台分の原木(スギ、広葉樹)を岩泉町安家地区に届けた。この様子は、岩手日報、日刊木材新聞で紹介された。

第3弾は、11月19日にフルトレーラー



薪用原木の荷降ろしの様子(11月8日)

1台分のスギ・ヒノキ原木を届けた。当日は土曜日とあって、遠くは滋賀県や長野県等から参加した10名のボランティアの皆さんが薪づくり活動をされていたが、皆さん一様にフルトレーラーの出現に驚き、大量の原木の提供に感激されていた。

また8日は、盛岡市の中屋五郎商店代表佐藤雄三氏(当組合会員佐藤勇一氏のお父上)が岩泉町(安家支所)に寄贈したチェーンソー5台、オイル3缶、混合油2缶を併せてお届けした。当プロジェクトは今後も継続して実施しますので、組合員の皆様には引き続きご協力をお願い致します。

**花粉症対策苗への植替  
・植伐一貫作業記念植  
樹行事を開催**

NJ素流協は11月25日、気仙地方林業振興協議会、気仙地方森林組合との共催により、住田町世田米の山林において「花粉症対策苗への植替・植伐一貫作業実証記念植樹行事」を開催し、林野庁、県、町、県山林種苗協同組合、森林組合、素流協組合員等関係者約50

名が参加した。

当組合では、今年度から林野庁の補助事業「花粉症対策苗植替促進事業」を活用した少花粉スギ苗への植替に取り組んでいる。今般、県内初となる少花粉スギのコンテナ苗植替と、町内関係者が連携して苗木生産から木材生産植替までの一連の作業を行うことを記念して、事業地1haのうち約0・1haに少花粉スギのコンテナ苗200本の植栽を行った。

事業の実施に当たっては、吉田樹苗が苗木生産を、(有)松田林業が伐採と地拵えを、気仙地方森林組合が植栽を受け持った。

主催者を代表して当組合鈴木理事長は、「戦後造林した人工林が成長し、利用できる時代に入った。伐採跡地に確実に木を植えること、中でも花粉の少ないスギの苗木を植えることは極めて重要であり、木材から苗木まで循環利用する今回の取り組みを各地に広げていきたい」と挨拶した。

また林野庁の赤堀聡之森林利用課長から、「花粉症ゼロの社会を目指し、林野庁では、花粉発生源対策としてス

ギの伐採と利用、スギ花粉症対策苗木の利用拡大等に取り組んでいる。ここを拠点として、スギ花粉症対策苗木の普及が図られるよう期待している」とご祝辞を頂いた。このほか県大船渡農林振興センター中村勝義所長、気仙地方森林組合爪木澤光毅組合長、森林所有者の菅野剛氏(元住田町長)からご祝辞を頂いた。

続いて、岩手県林業技術センターの蓬田英俊上席専門研究員から、使用する花粉症対策苗について説明を頂いた。県では少花粉スギ品種の開発に平成6年から取り組んでおり、平成29年春植え用として1万8千本以上の少花粉スギ苗木が生産される見込み。また苗木を生産した吉田樹苗の吉田正平代表(吉田清訓氏が代理出席)からはコンテナ苗の生産状況について、(有)川又林業の川又正人代表取締役からは自ら考案した背負い式の植栽籠の使用方法について、大船渡農林振興センター高橋美恵子主任主査からはコンテナ苗の植え方について説明を頂いた。

この後参加者は植穴掘り用のディブ



実演する川又社長

終了後には代表者による記念標柱の建立が行われた。

当組合では今年度、青森、岩手、秋田の3県において、計6haの花粉症対策苗の植栽事業を予定している。



記念標柱を囲んで記念撮影

持続可能な森林経営  
行動宣言

全国素材生産業協同組合連合会(日高勝三郎会長)等林業関係中央5団体は11月8日、「持続可能な森林経営の基盤確立に向けた行動宣言」に調印した。他の参加団体は日本林業協会(前田直登会長)、全国木材組合連合会(吉条良明会長)、全国森林組合連合会(佐藤重芳会長)、日本林業経営者協会(榎本長治会長)。

行動宣言には、木材利用促進対策の強化のほか「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を可能にする仕組みづくり等について盛り込まれている。

「木材情報」2017年  
新春座談会に出席

月刊誌「木材情報」(発行・一般財団法人 日本木材総合情報センター)恒例の新春座談会に当組合の高橋常務理事が出席します。来年1月15日発行の新年号に掲載されるので、ぜひご覧下さい。

パリ協定が発効

地球温暖化対策にかかる「パリ協定」が11月4日発効した。我が国では国会承認が遅れ、8日の批准となった。これにより、我が国では2030年度の温室効果ガス排出量26%削減(2013年度比)を目標に取り組むこととなり(本誌126号で解説)、再造林や間伐、木材利用の推進等の取り組みがこれまで以上に重要になる。

\* 管内供給先情報 \*

- 1. (株)花巻バイオマスエナジー 花巻発電所  
11月26日 東北電力との系統接続  
12月19日 竣工式
- 2. 秋田プライウッド(株)  
第二工場、3月から生産開始

国有林素材山元委託販売 入札結果

市日:平成28年11月24日(木)  
市場:岩手北部森林管理署(第3回)

(参加者人数 11名)

市日:平成28年11月29日(火)  
市場:岩手南部森林管理署(第4回)

(参加者人数 7名)

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
103-1	カラマツ	4.00	16-36	3等	959	157.098	3	鍋越山
103-2	カラマツ	4.00	16-36	3等	778	126.344	3	鍋越山
103-3	カラマツ	4.00	16-38	3等	804	139.058	5	鍋越山
103-4	カラマツ	2.00	16-34	3等	772	62.267	2	鍋越山
103-5	カラマツ	2.00	16-36	3等	1,095	87.602	2	鍋越山
103-6	カラマツ	2.00	16-34	3等	1,110	91.194	3	鍋越山
103-7	アカマツNA	2.00		低質	層積	19.278	4	鍋越山
103-8	カラマツ	2.00	16-34	3等	1,137	98.679	2	根花
103-9	トドマツ	2.00	16-34	3等	106	8.780	1	根花
103-10	トドマツ	2.00	16-30	3等	317	24.763	1	根花
103-11	トドマツ	2.00	16-32	3等	287	21.748	1	根花
103-12	トドマツNA	2.00		低質	層積	168.739	5	根花
103-13	スギ	2.00	16-50	込	975	100.882	3	前森
103-14	アカマツNA	2.00		低質	層積	121.338	7	芳名沢
103-15	アカマツNA	2.00		低質	層積	81.245	7	芳名沢
103-16	LA	2.10		低質	層積	89.352	4	芳名沢
合計					8,340	1,398.367		

売払番号	樹種	長級(m)	径級(cm)	等級	本数	材積(m³)	応札枚数	土場
604-1	スギ	4.00	18-38	込	41	8.156	0	津谷川
604-2	スギ	4.00	32-38	中玉A	3	1.450	0	津谷川
604-3	スギ	2.00	16-36	込	635	49.851	3	津谷川
604-4	スギ	2.00	16-38	込	280	25.549	3	津谷川
604-5	スギ	2.00	16-44	込	1,389	123.516	3	津谷川
604-6	スギNA	2.00		低質	層積	11.340	6	津谷川
604-7	スギNA	2.00		低質	層積	51.143	7	津谷川
604-8	スギNA	2.00		低質	層積	38.115	6	津谷川
604-9	スギNA	2.00		低質	層積	11.693	6	津谷川
604-10	スギNA	2.00		低質	層積	7.904	4	津谷川
604-11	スギNA	2.00		低質	層積	110.074	5	津谷川
合計					2,348	438.791		

視察報告

スウェーデン林業・バイオマス施設 視察研修 (その1)

ノースジャパン素材流通協同組合 営業企画課長 野田 秀一

この度、9月25日〜10月1日の7日間、鹿児島県素材生産業協同組合連合会主催のスウェーデン林業生産現場・バイオマス事業の視察研修に参加させていただきました。その視察内容を報告いたします。

\*\*\* \*\*

近年、日本の林業界は高性能林業機械の導入により飛躍的に発展しており、バイオマス事業も本格化していることから、効率的な燃料チップ生産とバイオマス施設の状態等について視察することを目的として今回の視察研修が行われ、東京大学の酒井秀夫教授を視察団長として、17名が参加した。当組合関係者では、(有)中村造林(秋田県小坂町)の中村豊社長夫妻が参加した。

▽スウェーデンの森林

スウェーデンの総森林面積は28

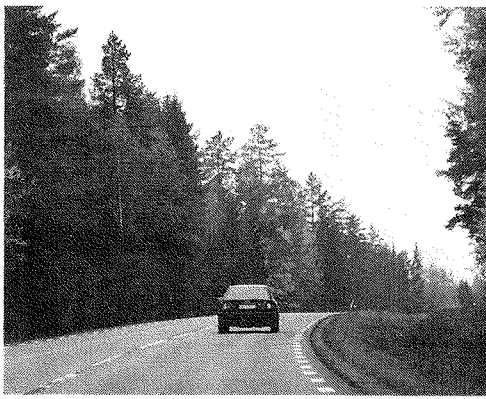


写真1 スウェーデンの森林の様子

00万ha、生産可能な森林蓄積は30億m<sup>3</sup>で、ヨーロッパアカマツが39%、ドイツトウヒが42%、ヨーロッパカシが12%となっている(写真1)。年間平均成長量はha当たり5.3m<sup>3</sup>、トータルでの年間成長量は生産林で1億1600万m<sup>3</sup>、その他の用途森林では1億230万m<sup>3</sup>である。420万haは保護地域に指定され、80万haの生産森林は国立公園や保護地区

に指定されている。

2013年の林業生産の状況は、木材1600万m<sup>3</sup>、パルプ1170万t、紙とダンボール1080万tで、再生可能エネルギーの利用は、バイオエネルギーを主体に1970年代から順調に伸びている。国内エネルギー消費量の半分以上は再生可能エネルギーによる。2012年のエネルギー供給量は600TWhで、使用量は377TWh、140TWhはバイオ燃料、泥炭と廃棄物からである。47%は産業用と発電に、38%が地域暖房と電力、10%が住居とサービスセクター、5%が輸送セクターに使用され、木材燃料による24TWhが地域暖房に使用された。

▽コマツフォレスト(株)(ウメオ)

9月25日、成田空港から約11時間のフライトでコペンハーゲンへ、そこで乗り継ぎし、約1時間でスウェーデンの首都ストックホルムに到着した。ストックホルムでは毎年ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベルの命日12月10日にノーベル賞授賞式が行われ、今年は東京工業大学

荣誉教授の大隅良典氏がノーベル医学生理学賞を受賞し話題になったところである。

翌26日、ストックホルムから約1時間のフライトでスウェーデン北東部の都市ウメオに到着。はじめにコマツフォレスト(株)を訪問した。

マーティン・アルレストイグ工場長によると、同社は1961年にウメオメカニカとして創業、2004年に(株)小松製作所(コマツ)の子会社となり、林業機械の製造、販売を行っている。現在は世界各国に拠点を置き従業員1400人を擁する。

同社の機械デザイナー管理者サミュエル氏・アンナ氏から工場の説明が



写真2 コマツフォレスト(株) オフィス



写真3 当工場で生産されるKomatsu895

あった(写真2)。ここでは460人が従事し、その内100人は機械デザイナー、半数は組立などの技術者で、工場内は5部門に分かれ、全て受注生産で需要により1シフトか2シフトになっている。1つの機械を作るために62万8千もの部品が使われており、部品は全て隣国フィンランドの185のサプライヤーによる生産で、コマツフォレストでは組み立てを行っている。この工場ではハーベスタ、フォワーダ、ハーベスタヘッドの3種が生産されており、同社最大のフォワーダであるKomatsu895もこの工場が生産されている(写真3)。

受注から発送までは通常8〜10日で納期が早く、顧客の希望を取り入れた特別仕様での機械デザインが可能。エンジンはフィンランド製アクロパワーエンジン。各部署には必要とされる人数が配置され、完成目標時間の電光掲示も見られるが、訪問時は昼食時でもあり工場内はのんびりした雰囲気だった。

外気温マイナス30℃でも稼働可能な同社の車両系機械は、全て当工場が生産されている。構造テスト、重量などの測定も行い、全てのハーベスタヘッドは天井から吊るし2時間の油圧テストを実施している。

### ▽スウェーデン農科大学

工場視察時、スウェーデン農科大学(SLU)のトーマス・ノドフェルト教授からは、同大学の概要を説明いただいた(写真4)。

SLUは1977年創立の農科大学で、天然資源の持続可能な利用と管理を目指し、地域社会と協力して、研究と教育、環境の観測と価値評価などを行っている。主なキャンパス

はアルナルプ、ウメオ、ウプサラに在り、ウメオキャンパスには学生600人、スタッフ570人、教授が58人いる。フィンランドや林業関係企業と提携し、実用的な新技術の開発研究が盛んに行われている。

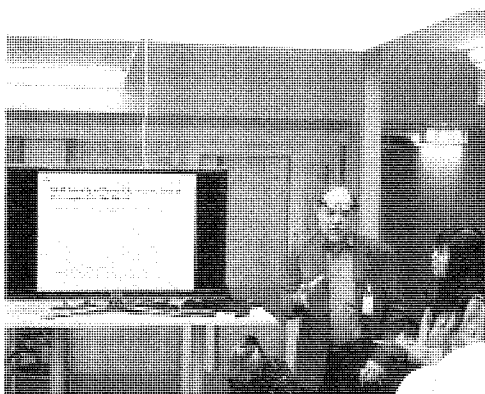


写真4 SLUトーマス・ノドフェルト教授

### ▽スウェーデン林業技術クラスター

工場を視察後、昼食会場にてスウェーデン林業技術クラスター最高経営責任者(CEO)マリア・ヘドブロン氏から説明をいただいた。

スウェーデンは過去100年間に価値の低い土地を豊かな森林に変えてきた歴史があり、森林は国家産業の基盤として捉えられている。ウメオには、ウメオ大学とスウェーデン

農科大学があり、人口12万人の街に学生が3万6000人いる。そこで、大学や研究者と企業が協調し林業の研究・発展に努めることを目的として同クラスターが設立され、研究はスウェーデン農科大学が、技術開発は加盟企業が担っている。加盟企業は11社で、従業員総数は1050人、総売上高は805億円以上で過半数は輸出による。

同クラスターの基本理念は、技術開発により競争力の向上を図ることとされ、次の5項目が重点分野として特定されている。

- ① パワートレイン等の推進システム及びその他の軟弱地を走行するための方法、製品
- ② バイオマスエネルギー生成の為の木質バイオマスを効率よく抽出するシステム
- ③ 燃焼効率の良いモーターを利用した、電気ハイブリッドシステム
- ④ クレーン先端制御の「共有」…ドライバーコントロールの一部自動化
- ⑤ 森林管理をより効率的にするためのシステム、植林の機械化

## ちよつと気になる木の話 5

## パルプ・チップ用とは何か？

日本の木材需給統計は、製材用、合板用、パルプ・チップ用に大まかに分かれている。一般的に使われているパルプ・チップ用とは何なのか。何故パルプとチップの間に「・」があるのか考えてみよう。

パルプとは繊維のことであり、木材パルプと非木材パルプに分かれる。よって、木材パルプから紙を作るので製紙工場が用途先となる。企業名としても兵庫パルプ工業、中越パルプ工業等がある。また、紙パルプ技術協会や紙パルプ産業等の言葉もある。当然紙なので経済産業省所管である。

一方、チップ(削片状にしたもの)はというと、木材チップ、陶器チップ等の種類はあるが、木材チップ工場は、木材チップを作る会社となる。木材の形質が残っているため、林野庁所管である。

いよいよ本題である。パルプ・チップ用とは何かといえば、製紙原料用の用語であった。かつての新聞用紙など

は機械パルプ(木材を機械ですり潰して作ったパルプ)であり、原木はそのまま製紙工場の土場に運ばれた。パルプ用である。一方、チップ用はチップ工場に運ばれ、チップ化してから製紙工場に運ばれた。両方共に製紙向けがほぼ100%だったため、「・」をつけてパルプ・チップ用として区分された。

国有林の区分では原材料の用語を使うが、この原料の意味は製紙工場向け原料材一本だったのである。今はパルプ材利用の機械パルプ用が減少しているのは、ご存知のとおりである。

チップ用はどうだろうか？林野庁の資料でもチップ工場から先は製紙工場等とある。等が多いのか少ないのかといえ、多いとも言えるし、少ないとも言える。チップ工業会に属さないチップ工場も多くあるからである。

等のうち、一番大きな需要先は畜産用である。敷きワラ代替と言われるもので、稲作の機械化によりワラは入手困難であるとともに、利用し終わって、

有機肥料に再利用するためには、再裁断のもう一手間が余計にかかるため、チップの需要が生じている。ロシア材丸太が入らなくなったときに、近江牛の大手生産業者への供給だけのために、チップ工場を造ったところもある。そんなの単価で合わないでしょうと言ったら、日本のブランド近江牛だぞと言われ、その代わりに毎月膨大な量を欠品することなく納入することが条件だったのである。

次に需要が大きいのが菌床キノコ栽培用である。日本の木材需給統計では、キノコ原木の欄があるが、毎年減少している。マイタケ等は原木栽培復活のキザシもあるが、中心のシイタケの原木栽培が減少している(東北では、シイタケ原木の供給は需要を大幅に下回っている。何とかしなくてはと思うが...)。ところが、スーパーに行けば、キノコ売り場は拡大の一途である。原木栽培ではなく菌床栽培である。この膨大な菌床用オガコ・チップはどこから来ているのか？チップ工場とは無関係な専門チップオガ粉屋さんが存在するからである。その他にも、マルチング用の

供給者も多い。

こうした統計は、ある時期から取られているが、調査主体が時々変化しているので統計元を探さなくてはならない。直近では、敷きワラ代替不足が激しいので国の畜産部局の調査が行われていると聞いているが、需要者と供給者のマッチングは行われていない。

ここで忘れてはならないのが、本当は需要があった繊維板業界である。とりわけ、削片板(パーティクルボード)である。合板工場と併設しているところもあるが、単独もある。しかし、チップ工業会では余り話題にならない。かつては、バージンチップを使っていたが、現在は、リサイクル系が多い。パーティクルボードもバージン系の商品ラインナップを分けるのが良い気もするが...

こうしてみると、原料材としてパルプ・チップ用としているが、製紙用以外の等である敷きワラ代替用、菌床用、繊維板用の工場をキツチリと把握して、日本の需要量を把握することが肝心である。発電用丸太・チップの需要量調査は開始したが、未完成である。



# 今月の名木・巨木 37 (青森県三戸郡階上町)

階上町指定天然記念物

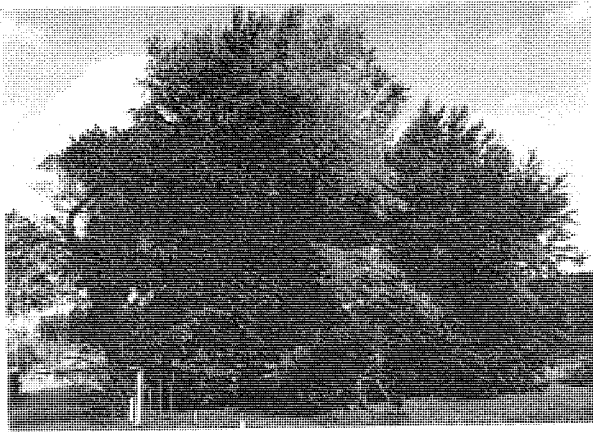
## 銀杏木窪の大銀杏

指定…2008年3月21日

所在…階上町道仏字銀杏木窪

青森県東南部の海沿い、岩手県との県境に位置する階上町は、町内に多くの巨木が存在し、「巨木の郷」として知られている。

町が2015年に発行したパンフレット「巨木の郷はしかみ」には、実に24もの巨木が紹介されて



れ、これに触ると母乳が良く出る、との信仰がある。

この突起は気根とも呼ばれるが、実際は根というわけではなく、なぜこのような形状となるかについては諸説あるようである。



地元では垂乳根の大銀杏とも呼ばれる

国内でも最大級のイチヨウの木を訪ねた。青森県にはイチヨウの巨木が非常に多く、環境省のデータベースによると主幹(最も太い幹)の幹周が10m以上の木が14本もある。銀杏木窪の大銀杏は、町内最古の老木と伝えられており、同データベースによると幹周で青森県第5位、全国第12位にランクインしている。

樹高約30m、幹周13.3m、推定樹齢約1000年(現地案内板より)とされており、一部の支幹は倒れているものの、樹勢は旺盛である。葉はやや色づき始めているが、本格的に黄色くなるのはまだ先のようなであった。

他のイチヨウの巨木と同様、幹や枝から垂れ下がった突起が見ら

「巨木の郷はしかみ」の発行に

当たり巨木調査・監修を行ったのは、階上町民によるボランティアガイド「階上売り込み隊」である。売り込み隊では「巨木めぐりツアー」や「どんこ祭り」等の活動を積極的にに行い、階上町の魅力を発信し続けている。

**年末年始無災害運動**  
 安全・安心・家族の笑顔  
 願いはひとつ  
 年末年始も無災害

岩手労働局・岩手労働災害防止団体連絡協議会は、平成28年12月1日から29年1月31日の2ヵ月間にわたり「平成28年度いわて年末年始無災害運動」を展開する。同時期に、林業・木材製造業労働災害防止協会岩手県支部は「平成28年度林業年末年始無災害運動」に取り組むこととしている。

平成28年1月～10月の岩手県における林業労働災害発生状況(速報値)は、休業4日以上の死傷者数が45名(うち2名が死亡者数)と昨年の43名(うち2名が死亡者数)よりも2名増加している。

年末年始は、慌ただしきに加え、凍結、積雪等の自然要因も加わり、労働災害のリスクが高まる時季となることから、組合員の皆様におかれましては、伐採作業や木材運搬にあたっては十分に注意していただくようお願いいたします。

平成 28 年 11 月 分 の 販 売 実 績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	8,183	84.4	106.5	9,561	108.4	144.5	17,744	95.8	124.1
カラマツ	3,182	171.3	132.5	586	253.3	52.0	3,768	180.4	106.8
アカマツ	2,894	212.1	275.7	129	91.4	89.0	3,023	200.8	253.0
その他針葉樹	0	*	0.0	531	82.0	*	531	82.0	540.9
広葉樹	0	*	*	606	153.3	251.2	606	153.3	251.2
合計	14,258	110.4	127.0	11,413	111.5	140.4	25,671	110.9	132.6

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,632	93.2	205.4
カラマツ	992	76.4	43.2
アカマツ	1,237	144.9	55.9
合計	7,861	96.0	108.4

樹種	今年度累計			
	合板用 (m <sup>3</sup> )	その他 製材用等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バイオマス (t)
スギ	65,875	49,942	115,817	37,482
カラマツ	18,423	7,630	26,053	12,724
アカマツ	17,632	1,368	19,000	10,169
その他針葉樹	0	1,178	1,178	0
広葉樹	0	1,307	1,307	0
合計	101,930	61,425	163,355	60,375
目標達成率 (%)	56.6	61.4	58.3	67.1
計 画 量	180,000	100,000	280,000	90,000

注) \*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成28年11月の需給動向】

- スギ・カラマツ製材用原木の引き合いが強まり、価格も値上げ傾向にある。
- アカマツは伐採時期に入り出材は順調。合板用アカマツ原木は引き合いが強まっている。
- バイオマス用素材は順調に出材されているが今後は雪の影響により出材が心配される。

耳からウロコ

カンバ類の不思議

樹種名と商流名が違うことは多々あるが、カンバ類の分類は、ネットでひいてもバラバラで正確にはわからない。

ウダイカンバ、ダケカンバ、シラカンバが代表的樹種名である。漢字で書けば鶴松明樺、岳樺、白樺とその性質が良くわかる。しかし、市場での流通名には、マカンバ、メジロカンバ、ザツカンバの名称が見られる。漢字で書けば真樺、目白樺、雑樺である。一般的には、ウダイカンバのうち心材の赤身の強く広いものをマカンバと言ひ、赤身の小さいものをメジロカンバと言ひとされている。ザツカンバはダケカンバの丸太流通名でマカンバ、メジロカンバに劣るのでザツカンバと言ひとされているが、シラカンバも含める、あるいはメジロカンバも含めるとの記述もある。困るのは販売予定価格をたてなければならぬ場合である。

ウダイカンバの価格は、マカンバとメジロカンバの平均値で求めるからである。まあ、民有林であれば、問題は生じないが...。通説では、日本一高かったウダイカンバは、東京大学北海道演習林産の丸太と言われている。しかし、これは、倒木で白太部分が腐っていたため、赤身だけの材積で販売し

たもので、本当に最高単価かは疑問である...。いずれにしても、赤身の比率の高いマカンバは、女王と言われる単価が出る希重品である。ちなみに林齢が低くてもマカンバは細いうちから真つ赤つかである。

カンバ類の有用樹では他に、オノオレカンバがある。漢字名は斧折樺で、斧が折れる程固い木である。某音響機器メーカーの本当のマニア向けスピーカー100台のために探して欲しいと言われた時があるが、在庫していそうな会社を紹介するしかない位希少である。民芸用のお六櫛用としても使われるが、商流名はミネバリとなっている。

うっ、ミネバリと言えばヨグソミネバリが思い出される。枝を折ると独特のにおいがするためと言われ、夜糞峰樺の漢字があてられる。当然商流名である。樹種名はミズメである。えっ、ミズメはミズメザクラと言われ、ザクラではないのか？ミズメはカバノキ科カバノキ属である。材色、質がザクラに似ているからの通称である。このミズメも最近単価は極めて高い。このように商流と樹種名は異なっているということ、利用価値が高い丸太がカンバ類には多いということだろうと思う。

ミズナラとイシナラ、青ゲヤキと赤ゲヤキ、ヌカセンとアオセン等の違いは、またの機会にと...